

JIFAS NEWS



Japan international Food and Aquaculture Society

E-mail : jifas@sage.ocn.ne.jp

http://www.jifas.net

〒302-0131

茨城県守谷市ひがし野 2-1-1001

TEL:080-5084-6541

片野 歩(かたの あゆむ) Fisk Japan

早稲田大学卒。Youtube「おさかな研究所」発信。2022年東洋経済オンラインでニューウェーブ賞受賞。2015年水産物の持続可能性（サステナビリティ）を議論する国際会議シーフードサミットで日本人初の最優秀賞を政策提言（Advocacy）部門で受賞。長年北欧を主体とした水産物の買付業務に携わる。特に世界第2位の輸出国であるノルウェーには、20年以上毎年訪問を続けてきた。著書に『日本の水産資源管理』（慶應義塾大学出版会）他。



「日本の水産物」中国向け消失も“輸出増加”のなぜ

東洋経済 ONLINE(抜粋)

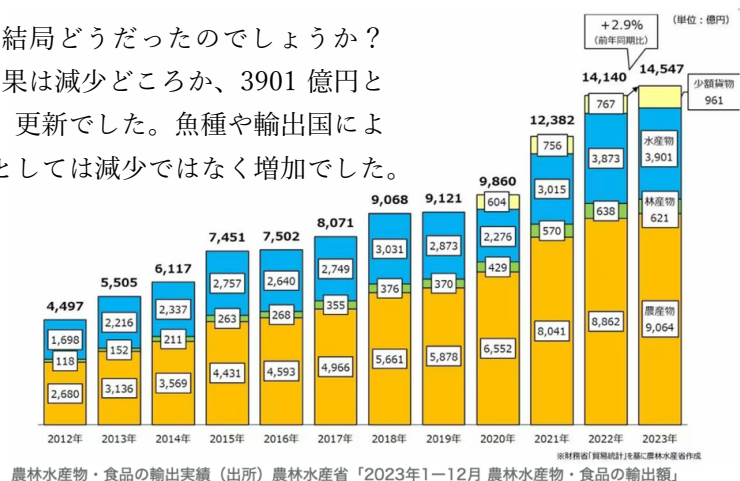
2023年8月に中国が処理水の放出をめぐり、日本からの水産物輸入を停止しました。中国は日本の水産物にとって最大の輸出先であり、その輸出シェアは22.5%ありました（農林水産省2022年の数値、以下同）。さらに香港の19.5%を加えると42%にも及び、その影響について大きく報道されていました。

特にホタテガイは、中国向け輸出が51.3%を占め、輸出が止まった影響がクローズアップされていたのは記憶に新しいのではないかと思います。

中国向け輸出が止まったのに金額は「過去最高」

ところで2023年の水産物輸出金額は結局どうだったのでしょうか？農林水産省が発表したデータによると、結果は減少どころか、3901億円と前年の3873億円を1%上回り「過去最高」更新でした。魚種や輸出国によって金額や数量の凸凹はありますが、全体としては減少ではなく増加でした。

世界の水産物貿易は増加を続けていますので、どこかの国の輸入が止まってもその分は、ほかの国々や自国で消費されていくのです。それだけ水産物に食料としての価値があり、また貿易商材としてのポテンシャルは高いのです。



日本の水産物の輸入はどんどん減少

2006年まで、日本は世界最大の水産物輸入国でした。現在では、EUを個々の国とした場合、アメリカ・中国に次ぐ第3位です。今後も世界全体の水産物輸入の需要増を背景に、日本の水産物輸入量は減少してい